

「全国雑木林会議」プレ企画

十月に大田市で開かれる「全国雑木林会議石見銀山大会」のプレ企画として十一日、同市温泉津町の温泉津小学校で、児童たちが同大会のオープニングで演奏する竹楽器作りに励んだ。

輝く世界遺産
石見銀山遺跡

温泉津小学校は昨年から同会議と協働し、遺跡内で竹の子を掘る活動などを実

10月の本大会 オープニングで演奏

実践している。今回は、竹の有効利用を目的に楽器作りに挑んだ。

集まった四一六年生三十六人や同会議の会員らは、広島県竹原市のNPO法人・竹夢楽団の佐渡泰理事長(44)らに教わりながら、しの笛と打楽器のクロンプット、マリンバを製作した。

竹筒の切り口をたいたいて音を鳴らすクロンプットづくりで、児童たちは竹の節を抜き、切断面を磨く作業を担当。

チューナーで音程を測りながら、同会議の会員らに竹の長さを調整してもらい、組み立てた。六年の坂根悠菜さん(12)は「筒の長さによって音が違うのが、不思議で面白い」と笑顔だった。

温泉津小で竹楽器作り



竹を利用した楽器作りに取り組む温泉津小学校の児童たち—大田市温泉津町、同校体育館